物を節約しよう

いわむろ
発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K.K
No.145

岩室村の人口

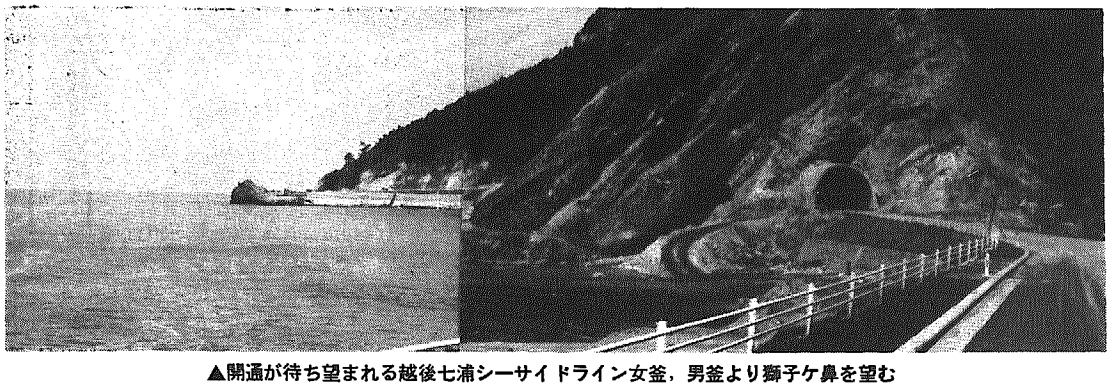
	（4月1日現在）	前月対比
男	4,221人	（−23）
女	4,810人	（−18）
計	9,031人	（−41）
世帯数	2,089世帯	（−1）

（住民基本台帳による）

≡海岸地域観光開発のポイント≡

6月1日 越後七浦シーサイドライン開通

間瀬←→野積　5・3 km



▲開通が待ち望まれる越後七浦シーサイドライン女釜，男釜より獅子ケ鼻を望む

待望の〝越後七浦シーサイドライン〟が六月一日、全線のうち三島郡寺泊町野積から間瀬の五・三キロがオープンとなります。

四十三年から、県が海岸無雪道路として山形県境から海岸線を通り国道八号線と交差する柏崎市までの間を計画しているもので、その一環としての〝シーサイドライン〟は、山麓と海岸線の美観を一望におさめる眺望がすばらしく、弥彦山スカイラインと立体的な観光ルートとして開通が強く望まれていた。

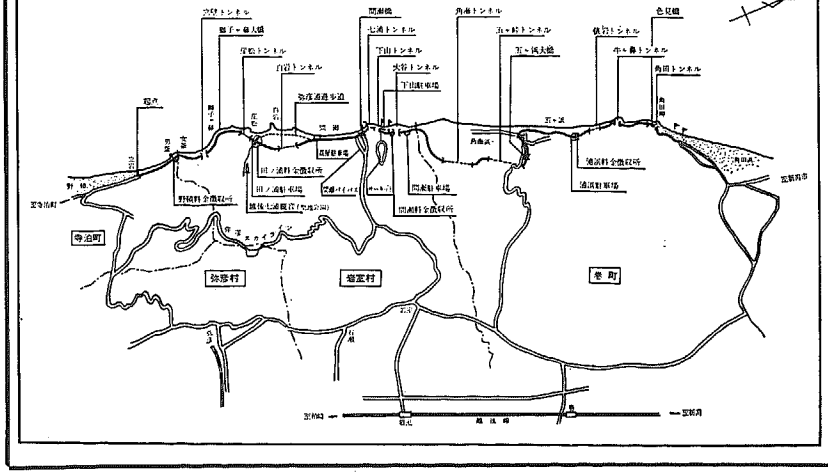
区間は三島郡寺泊町野積から巻町角田浜までの十三・九キロ（うちトンネル十一ヵ所、延長二・一キロを含む）幅員五・五メートルで、二車線のアスファルト舗装、制限速度四十キロ、総事業費約四十億、五十年四月に全線がオープンする予定です。

この道路が実現すれば、観光交通、過疎現象にある海岸地域の観光開発と地域産業の振興に果す役割は非常に大きいと思われます。

六月にオープンする野積ゲートから間瀬ゲートに至る五・三キロは、その景観はシーサイドライン中随一で海上の一部通過、最長の獅子ケ鼻大橋（百十六メートル）等があり、弥彦山スカイラインと結びつき回遊ルートとして脚光をあび、今後ドル箱的存在になるものと思われます。

通行料金は普通車二百円、軽自動車百五十円、軽車輌二十円、歩行者は無料です。

越後七浦シーサイドライン



建設計画の配慮

景観、自然保護を重点に

計画ルート沿線には、県文化財の指定を受けている「間瀬枕状溶岩」をはじめ弁慶の磯石、崖松、立岩等の奇岩や老松が点在しているため、これらに影響を及ぼさないようトンネルを含めて法線の選定が行なわれている。

なお、海岸の現況をみると波浪による浸蝕を受けて山腹崩壊を起しているところが数ケ所あり、これらの場所は道路を海岸側に付けることによって崩壊の防止もあわせて考えられている。

計画において約三万六千立方米の残土が見込まれているが、駐車場新設地に運搬処理され附近への影響がなく自然保護に重点を置き工事執行されている。